



「道」西平士紋
(本学経営学部学生 / tachibana photo)

平安の昔から、
「昔の人」の懐かしい思い出を
呼びおこすとされた橘の花の香り。
その橘を最も好んだ「時の鳥 (ホトトギス)。
「CHRONOS 時の鳥」は、
ギリシア神話の「時の神」クロノスを頭上に戴き、
「時」の天空をはばたく鳥を
イメージしています。

クロノス [時の鳥] vol.52 2025.3

C 〈巻頭エッセイ〉
自治体は女性幸福度指標の導入を
過去に開かれた窓 7
作品のウチソト 7
歴史遺産とジェンダー 7
E イギリス女性生活誌 52
N 近代日本音楽史を彩る女性たち 13
T 私の読書の中のジェンダー
S INFORMATION

自治体は女性幸福度指標の導入を

竹内直人 本学経済学部経済学科教授

衆議院選挙における女性議員の増加

二〇二四年一〇月二七日に実施された衆議院議員選挙の結果、衆議院の女性議員は七三名（二五・七％、定数四六五）と過去最高になりました。これまでで最高であった二〇〇九年の五四人（一一・三％、定数四八〇）から一九名増加し、意思決定における女性議員の影響力は増すでしょう。政府の第五次男女共同参画基本計画（二〇二〇）は、二〇二五年に衆院選の女性候補者の割合を三五％まで増やすと掲げます。それにはまず、現在三八六名（一四・六％）に留まる女性の地方議員の数（総務省調べ）を増やすことが肝要です。そのためには、女性が各地域各分野で活躍し、頭角を現す環境が不可欠であり、働く女性にワンオペ、家事と職場のダブルワークを強いる日本型雇用の改善が鍵となります。本稿は、近年自治体で広がる幸福度指標をとおして、クォータ（役職の配分制）やアフターマティブ・アクション（政策的優遇）とは異なる観点から、女性の活躍推進を考えます。具体的には、自治体で広がる幸福度指標の背景を考察し、自治体に政策評価の基準として女性幸福度指標を採用することを提案します。

幸福度指標の拡がり

近年、自治体が政策目標として住民の幸福向上を掲げ、評価指標として幸福度指数などを掲げる例が増えています。その嚆矢は二〇〇五年に荒川区の西川太一郎区長に

第三の背景として、自治体行政の新たな政策評価の模索があります。行政学者村松岐夫は、日本行政の特徴は「最大動員」であるといいました¹⁾。これは近年メンバーシップ型²⁾と呼ばれる日本の雇用のしくみを行政効率の観点から述べたものです。それはまず職務（ジョブ）内容を固め、それにふさわしい人を選んで採用する欧米型のシステム（ジョブ型）とは異なります。メンバーシップ型とは、まず人を組織のメンバーに迎え入れ、育て、人に応じて仕事を与えるしくみなのです。ジョブ型では、人はジョブ以外の仕事は行いませんが、メンバーシップ型では手のすいている職員や有能な職員には、兼務や併任―これらは職務と人が一対一で結びつくジョブ型の欧米には原則的には存在しません―などを通して多くの仕事が集まります。いわば「人を遊ばせない」システムであり、これを村松は最大動員と呼んだのです。ジョブ型では仕事は職務の範囲に限定されますが、最大動員では仕事は職務を超えて広がっていきます。

この最大動員を前提に仕事の評価を考えてみましょう。たとえば職員Aさんが、本務と兼務という二つの仕事をする場合、Aさんの兼務職の能率は、昨年、本務のみを行っていたBさんよりも劣るかもしれません。しかし、組織全体をみるとAさんの貢献はおそらくBさんよりも大きいでしょう。本務と兼務という個別の職務を評価したのではその貢献はとらえきれません。幸福度指標は、このような日本行政の特色を踏まえた、職務ベースから住民ベースへ評価軸を転換する自治体の政策技術開発の試みです。

最大動員の課題

最大動員には大きな課題があります。それは人を遊ばせないことを超えて「無制限無定量」の働き方を求める危険をはらむことです。一九八〇年代末に「二四時間働

よって提案された「荒川区民総幸福度（GAH）」です。これは一九七〇年代に当時の第四代ブータン国王が、GNP（国民総生産）に代えて提唱したGNH（国民総幸福）に倣ったものです。その後、都道府県では、福井県、富山県、三重県、熊本県など、市町村では京都市や福井県越前市などが幸福度を指標化し、その向上を政策目的に掲げています。

政策目標としての幸福度指標の拡がり

幸福度が政策指標として注目される背景には、社会・経済状況の変化、地方の政治・行政の変化、そして新しい政策評価軸の模索という三つの要因があります。

第一に、社会が成熟すると、効率や公平の観点から画一性を必要とする行政サービスと多様な住民ニーズとの間にズレが生じます。アウトプット（産出）よりもアウトカム（成果）というスローガンは、このようなズレを反映するものです。幸福度指標は変化に対応し、「幸福」という広い概念により、住民ニーズに対応しようとする自治体の姿勢の表れです。

第二に、住民ニーズに応えるだけの実力を蓄えた地方の政治・行政の成熟があります。地方分権改革以来、自治体の首長及び行政は、国・地方の関係よりも住民・自治体の関係を重視するようになり、実績と信頼を得てきました。幸福度指標は、国の政策よりも地域課題を優先して解決しようとする自治体の理念が結実したものです。

「最大動員」というCMがありましたが、最大動員は高度経済成長時代に形成された男社会の労働規範であり、背後には、男は仕事、女は家庭という役割分担があります。この規範は政治の世界では「女性のいない民主主義」³⁾となり、女性が職場に出ると、女性をワンオペ、ダブルワークに追い込むこととなります。そして女性はキャリア形成から降りていくこととなります。最大動員の問題点は働く女性に集中的に現れますが、実は働く男性にとっても負担は大きいものです⁴⁾。現在議論されているジョブ型雇用システムは、働き方改革として始まっており、そのスタートは二〇一六年の電通の事件をはじめ多くの過労死事件にあったことは記憶にとどめるべきです。

幸福度指標を掲げる自治体は、住民の幸福には女性の幸福が不可欠であり、女性の幸福度向上は男性の幸福度に繋がることを認識し、政策指標に採用してほしいものです。これは女性へのアフターマティブ・アクションではなく、男女がともに幸福になるための改革の一步です。それはまた、女性の活躍につながる女性議員の増加につながることにほずです。

（追記）

本稿脱稿後、石破首相は施政方針演説（二月二四日）で「国民一人一人の幸福実現を可能にする…国づくり」をめざすと述べた。地方の動きに敏感な石破首相らしいものであり、実現を期待する。

【参考文献】

- 1) 村松岐夫『日本の行政』中公新書、一九九四年。本書は三〇年前に日本行政の最大動員が曲がり角を迎えていることを述べた先見のなもので、日本社会論としても読むことができる味わいのある本です。
- 2) 濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書、二〇二一年。
- 3) 前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書、二〇一九年。
- 4) 竹内直人『女性の活躍を阻む日本型雇用制度』（クロノス第47号、二〇二二年一〇月）。

過去に開かれた窓



野田 泰三
本学文学部歴史学科教授

7

中世女性の花押と印判

日本中世の女性の花押（かおう）と印判を探しています。

花押とは自筆のサインのことです。草書体（くずし字）による署名（草名）が符号化・デザイン化されて一世紀頃に成立し、署名の下に記されたり（「花押を据える」と表現します）、あるいは署名はなく花押単独で据えられたりして、平安時代後期以降広く用いられるようになります。

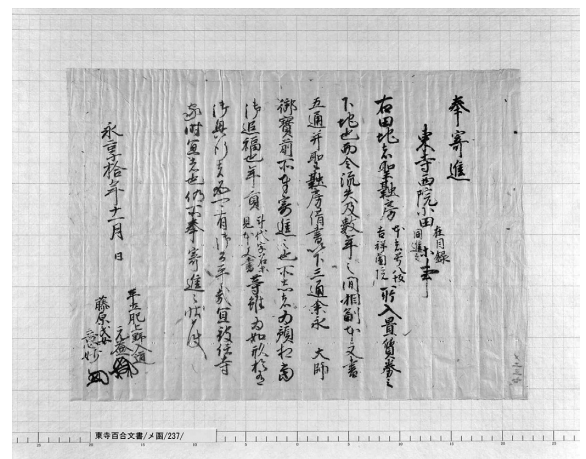
鎌倉幕府の創始者である源頼朝は「頼」の「束」と「朝」の「月」を組み合わせた花押を用いました。また尊氏以下歴代足利将軍の花押は「義」のくずし字をデザインしたものです（写真1）。花押を据えるのは、現在のサイン同様、その文書をしたためたのが間違いなく自分本人であることを保証・証明するためですが、足利将軍は花押を制定する「花押始め」という儀式を経て初めて公文書を発給することができたことを勘案すると、花押を持つということは社会的責任を果たしうるとして認められたことを意味すると言つてよいでしょう。

前近代の日本は基本的に男性中心の社会ですから、公家、武家、在地社会（荘園村落）、いづれをとつても私信・公文書にかかわらず文書の発給者（署判者）はほとんどが男性です。女性がしたためた書状や女官・女房が天皇など主人の意を奉じて発給した女房奉書なども残っていますが、女性は署名をすることも稀で、花押となると圧倒的に少ないのです。

それでも、女性の花押が無いわけではありません。鎌倉時代には女性の地頭がいたことが知られていますが、建治三年（一二七七）六月一日に藤原氏女（うじめ、うじのよ。藤原氏出身の女性という意味）が肥前国晴氣保地頭職を子息弥松に譲渡した譲状には氏女の花押が据えられています（宗像神社文書）。藤原氏女の花押は当時の男性武士の花押と遜色ありません。土地の売買証文や寄進状といった権



(写真1) 建武3年9月5日足利尊氏御内書（本学所蔵）



(写真2) 永享10年11月日土肥元益・藤原氏女意妙連署田地寄進状(東寺百合文書メ函)(京都府立京都学・歴史館「東寺百合文書WEB」より)

うですが、例えば東寺百合文書WEBや東京大学史料編纂所のデータベースで検索してみると、鎌倉・南北朝期にはそれなりにみられた女性の花押使用の事例が、一五世紀になると少なくなる印象を受けます。また夫妻など男女が連署する寄進状・売買証文では、男性は署判（署名+花押）するが女性は署名のみで花押は据えないという事例も見られます（応永二五年四月二九日玄祐・藤原性金女連署島地寄進状（今堀日吉神社文書）、明応七年八月一八日報春庵藤原氏女明室宗清田地作職寄進

状（西大寺文書）など）。
一般に、中世後期になると女性、とくに公家や武家といった上層階級の女性には家の内部に押し込められて表舞台に立つことは少なくなる、つまり女性の社会的地位が低下すると考えられています。女性の花押使用事例の減少もその表れなのでしょう。
一方で、播磨守護赤松政則の後室洞松院が永正年間（一五〇四〜二一）前半に分国支配のため黒印状を発給していたことを以前紹介しましたが（本学『女性歴史文化研究所紀要』二六号所収

利文書にも女性の花押を見ることができま

真言宗の古刹東寺（京都市南区）は弘法大師空海ゆかりの寺ですが、中世には現世安穩や後生菩提を祈念する多くの人々が空海を祀る西院御影堂に土地を寄進しています。永享一〇年（二四三七）一月に土肥元益という武士が田地を寄進していますが、その寄進状は妻と思しき藤原氏女意妙と連名になっており、意妙も室町武家様（ぶけよう）の花押を据えています（東寺百合文書メ函）（写真2）。

琵琶湖に浮かぶ竹生島（都久夫須麻神社と宝厳寺）は弁財天女を祀り、湖北地域を中心に広く信仰されましたが、明応九年（一五〇〇）三月には浅井直政（亮政の養父）とその母「浅井後室慶集」が、天文二年（一五三三）二月には亮政の娘「藤原氏女鶴千代」と夫である明政がそれぞれ連名で田地を寄進しています（竹生島文書）。寄進状に据えられた慶集・鶴千代の花押は、男性よりはやや簡略ではありますが武家様の花押です。

但し、ここにあげた意妙・慶集・鶴千代はいずれも相応の身分・地位のある武士の妻室です。一六世紀・戦国時代にも身分ある女性は花押を使ったよ
拙稿）、文明二二年（一四八〇）一月一日小河兵庫助息女はふ田地寄進状（正明寺文書）や永正一八年（一五二二）五月の依藤つほね福田保西条代官職請文（国立国会図書館所蔵「曇華院殿古文書」）など、戦国時代の播磨では女性が印判（ハンコ）を捺した文書が確認されます。

東日本では一五世紀末から今川・北条・武田といった戦国大名が領国支配のために印判状を発給するようになりますが、西日本では花押が優越する社会で、印判はほとんど用いられません。それだけにこの播磨の事例はかなり特異なのですが、なぜ彼女たちは花押ではなく印判を据えたのでしょうか？
花押を用いなくなった女性は印判を使用するようになるのでしょうか？
ときにその人物の人格の象徴ともみなされる花押と無機質で文書の大量発給に適した印判、と説明されることもあります。花押と印判では意味が違

うのでしょうか？
その印判を女性が用いる意味は如何？
興味は尽きません。今後さらに事例を収集し、謎に迫りたいと考えています。

「眠り」二つのバージョンを読む

―里帰りしたハルキ・ムラカミ―

辻本 千鶴 本学文学部日本語日本文学科教授

外国語に翻訳され海を渡った村上春樹作品が、かの地で新しい意匠を得て日本に里帰りする現象が起こっています。その一例として、短編小説「眠り」(初出『文學界』一九八九年一月)についてフランス版バンドデシネ、ドイツ版イラスト本を紹介しましょう。

バンドデシネとは、フランスで一般読者に向けた絵本という趣です。日本のコミック本のようなモノクロ菊版ではなく、彩色ハードカバー大型本です。「眠り」はJcドゥヴニ翻案、PMGLの漫画でフランスで刊行されました。それが再び日本語に訳され、『HARUKI MURAKAMI 9 STORIES』の一冊として出版されています。海外での発売、流布、受容状況に触れる余裕はありませんが、現在日本で入手可能な三冊の「眠り」を読み比べてみましょう。

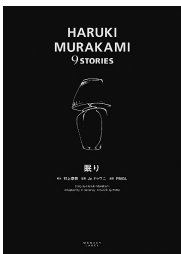
和感を描いた作品です。歯科医と結婚し、小学生の息子がいる「私」が、「眠れなくなつてもう一七日めになる」というところから、作品は始まります。不眠のなかで彼女は長いロシアの小説を読みたいと思ひ立ちます。トルストイの『アンナ・カレーニナ』、これが人妻の恋愛を描いた小説であることに、作者のメッセージは潜んでいるでしょう。不自由のない平穏な結婚生活に底流する、夫への違和感、やがて夫に似てくるであろう息子への不信任感。読み進める本のページの間、チヨコレートの欠片を発見した「私」は、夫に禁じられて買わなくなったチヨコレートを無性に食べたくなって、買いに行きます。そんな出来事を皮切りに、彼女は眠らない日々を続けていくのですが、夫はそれに気づきません。何があつても目覚めない夫を「立派なもの

だ」と評する彼女のなかに、夫(や息子)が血統的に持つ「自己充足性」への嫌悪が読み取れます。

読書に耽つた翌朝は、いつもより空腹を覚え、スイミングスクールで泳いでも疲れることなく、全身の肌はつやつやと若返ります。そのような形で「私」は、これまでの、現在の生活・人生へのNOIを体現しているのです。図書館で解説書を読んだ「私」は、生活における「傾向的消費」を解消するために睡眠があることさえ、傾向的に消費されたくないと思ひ、「眠らない」ことを選び取ります。(論理的には因果を逆転させた誤解があるのですが、それはここでは問いません。)結末部、夜のドライブ先で停車中、影のようなものに車を揺らされるところで作品は終わり、なとも心地の悪い読了感が漂います。

このような短編小説が、バンドデシネではどのように表現されているのか、原作小説との違いに着目して紹介しましょう。彩色が施されていることが、極めて効果的に働いています。夜の場面を中心に全体が黒、濃紺で描かれているなか、『アンナ・カレーニナ』の作中世界は鮮やかな色彩で描かれています。夫が昼食のために帰宅した時には、本に夢中になつていた彼女はロシアのドレスをまとい描かれて

1) 村上春樹/原作、Jcドゥヴニ/翻訳、PMGL/漫画
「HARUKI MURAKAMI 9 STORIES『眠り』」

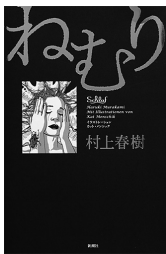


います。(原作にはなくて、読者の笑いを誘うところでしょう。)なかでも、苺の鮮やかさには目を見張るものがあります。原作には「そして台所の冷蔵庫から苺を出して食べた」とあるだけのところですが、バンドデシネでは夜の暗闇、フロアスタンドの薄明のなかに、真っ赤に浮き上がるパックに詰まった苺が鮮やかであり、「アンツ」と口を開け「モグモグ」と食べる様子が、四コマに渡って描かれています。他にも「私」が眠らない世界にいます。ベッドサイドの電子時計の示す時刻は「91:06」や、「49:71」とあり得ない時刻表示がなされ、「私」が現実世界に戻ると「00:30」と通常に復しています。漫画家の遊び心がうかがえて、楽しめるるところです。一方、視覚的に表現する難点も指摘できます。夫の顔を「私」は不思議な顔だと思っています。彼は妻の友人にも、患者にも好かれる好人物です。その人、自分の夫の顔を絵に描いてみようとしても思ひ出せない、不思議な顔としか言い表せない、ここには、「私」と夫との根本的なへだたりが横たわって

いるように読めます。夫の「不思議」としか表現のしようがない」顔は作品のキーワードでもあるでしょう。ところが、これは漫画での表現を超えているに違いありません。PMGL描く夫の顔は平凡な東洋人には見えませんが、それ以上ではありません。「不思議な顔を漫画にする難しさ。読者の想像力に直接訴える小説の方が、かえって表現可能性が大きくなる一例でしょう。」

タンバイした姿勢を取る女性に重ねるように、上部に鯨の骨格の透視図が描かれています。きわめて独創的なコラボレーションと言えます。私見によると、「私」が眠れない・眠らない現象を、その生活や家族関係から切り離して捉えなおそうとしているように思われます。すなわち、地に足をつけて生きる人間としてではなく、むしろ、宇宙空間に浮遊する生命体として捉え直そうとする意図が感じられます。まるで、海中を遊泳するクラゲのように。そこには、イラストレーター独自の世界観が加味されていると言えます。

このように見ると、コミック版もイラスト本も、原作小説をベースにしつつ、海外の画家たちそれぞれの作品受容を描出した、新たな作品になっていると言えます。メディアミックスの時代、国際日本文化の時代に、小説の楽しみが広がっています。



2) 村上春樹/著、カット・メンシック/イラストレーション
「ねむり」

い時刻表示がなされ、「私」が現実世界に戻ると「00:30」と通常に復しています。漫画家の遊び心がうかがえて、楽しめるるところです。一方、視覚的に表現する難点も指摘できます。夫の顔を「私」は不思議な顔だと思っています。彼は妻の友人にも、患者にも好かれる好人物です。その人、自分の夫の顔を絵に描いてみようとしても思ひ出せない、不思議な顔としか言い表せない、ここには、「私」と夫との根本的なへだたりが横たわって

シクメックのイラストが特徴的なのは、原作にはない動物がいくつも描かれていることです。クワガタ、ミツバチ、クラゲ、カモシカ、鯨、熱帯魚、鳥、猿。一方、「私」の夫も子供も登場していません。例えば、瞼を閉じて俯く女性の首から上が描かれているイラストでは、頭部に五つ、首元にひとつ、大きなクラゲがあり、背景にも多くのクラゲが描かれています。また、「私」がプールで泳ぐ場面では、背泳ぎにス

1) JcドゥヴニとPMGLのコンビで村上春樹の短編九作品をバンドデシネ化したシリーズ。日本では二〇一七年六月・二〇二二年九月にスイッチ・パブリッシングから刊行された。他には「パン屋再襲撃」「かえるくん、東京を救う」「七番目の男」「タイランド」などがある。

2) 日本語版「ねむり」(二〇一〇年一月、新潮社)の「あとがき」には、「内容を大きく書き直すのではなく、文章的に『ヴァージョンアップ』してみたい」、オリジナル版と区別するためにタイトルの表記を変えたとする村上の言及がある。

現代の問題を 原史まで掘り下げる

中久保 辰夫

本学文学部歴史遺産学科准教授

治面では一三位、経済面では二〇位と順位がかなり下がります。ライフステージに即してみると、高校生、大学生から社会人になる青年期に男女間の不平等が顕在化し、この時期が分岐点となってしまっています。

それでは、日本社会はどうしてジェンダー不平等になっているのでしょうか。この問いに答えるために、本学では二〇二三年度より重点研究分野「女性の歴史を学び、女性の未来を考える」の研究ユニットとして「ジェンダー・ストラクチャー研究ユニット」を立ち上げ、調査をすすめています²⁾。

研究ユニットで明らかにしてきた成果は、これから発信されていく予定ですが、このプロジェクトに参加する中で、私自身も日本社会に蔓延している不平等の起源について考えることも多くなってきました。私が専門とする考古学は、遺跡の発掘によって人類の過去を数百年はもとより、数千年、数万年さかのぼって復元していきます。その成果に接すれば接するほど、人類の長い歴史の中で男女の経済格差、政治への参加の問題はごく最近のことのように思えるからです(もともと私の感覚では、奈良時代は比較的新しい時代です)。そういう思考に至った、興味

ジェンダー平等は、国際連合「持続可能な開発目標」SDGsの一つで、とても大切なことです。しかしながら、世界経済フォーラムが例年公表するグローバル・ジェンダー・ギャップ指数¹⁾では、二〇二四年においても、日本は一五六カ国中一一八位と低迷を続けています。G7では最下位です。何とかしなければならぬ問題です。

課題解決のために、グローバル・ジェンダー・ギャップ指数を具体的にみてみると、日本の順位は健康が五八位、教育は七二位で、教育の中でも識字率、中等教育就学率は男女で完全平等となっています。ただし、高等教育就学率では男女の不平等が広がり、政



はまります。西暦三〜四世紀の日本では古墳に女性が埋葬されることはすくなくありません⁴⁾。たとえば、兵庫県三木市の与呂木古墳は、四世紀後半の古墳ですが、人骨が遺存しており、小柄な体形と小ぶりの頭部を特徴とする女性であったことが分かっています⁵⁾。ほかの古墳の事例などを踏まえてみても地域を統治した古墳の被葬者は男女比でいうと一一。現代の方が不平等であるのは、なんだか皮肉で、「元始女性は大陽であった」というのは邪馬台国の女王卑弥呼を想起すれば、間違いではありません。もともと、軍事的緊張が高まる西暦五世紀には、古墳被葬者の男性比率が増加するという傾向も

深い遺跡をみていきましょう。

まずは、フランスのVix遺跡^{ヴィックス}。紀元前六世紀末の墳墓です。ヨーロッパ鉄器時代、ハルシュタット文化期の遺跡であり、要塞集落と墳墓が発掘されています。このうち、女王の墓^{とされる一号墳}では、四輪の荷台に被葬者が安置され、青銅器やギリシャ土器などを含め、豊かな副葬品がおさめられていました。なかでも目を惹くのは、一・六mと人の背丈ほどある青銅容器クラテール(Krater)です。この青銅器はワインと水を混ぜ合わせる酒器ですが、ゴルゴン(Gorgon)の装飾があり、ギリシャ本土でつくられた特製品とみられています。ハルシュタット文化期後半は「Principales」の時代と呼ばれることがありますが、日本語にうまく翻訳することが難しいのですが、「公国」に近く、貴族が存在する社会³⁾です。支配者は男性では「Prince」、女性である場合「Princess」とされ、どれもラテン語の「Principes」に近い意味で使われています。これは子供が生まれながらにして王あるいは女王となるのが決まっている、すなわち世襲が成立していることを示します。そして、世襲は男系継承を必ずしも意味しないのです。このことは古墳時代についてもあて

あります。

しかし、軍事的緊張と女性首長との関係もまた単純ではありません。ローマ軍がブリテン島に押し寄せた時、ケルト諸民族を束ねて反乱をおこしたのはブーダイカ(Boudica)という女王でした。結局のところ、政治的な役割が「女性/男性に向いている」というのは、無意識の偏見、近現代的な思考、とくに個人を取り巻く価値観によるところが大きいという気がします。しかし、この偏見や価値観こそ、人生を束縛し、払拭が難しいものであるとも思います。社会の問題は、選択式ではなく、論述式で答えなければなりません。過去を掘り下げることで正解に近づくのではないかと考えています。

【参考文献】

- 1) <https://www.weforum.org/publications/global-gender-gap-report-2024/>
- 2) 村上裕道「ジェンダーストラクチャー研究ユニットの紹介」(クロナス第49号、二〇二三年一〇月)。
- 3) ロラン・ネスプルス「ヨーロッパから見た古墳時代像―原史時代大陸モニュメントとの比較を通じて―」『古墳時代の考古学』9、21世紀の古墳時代像、同成社、二〇一四年。
- 4) 清家章「埋葬からみた古墳時代 女性・親族・王権」吉川弘文館、二〇一八年。
- 5) 金松誠「与呂木古墳・与呂木二号墳」三木市教育委員会、二〇二二年。

Vix 墓の副葬品 (中久保撮影) ▶

▼ 与呂木古墳石棺内埋葬イメージ



第52回

●連載●イギリス女性生活誌 語り伝えられた衛生知識、 育児法、そして家政学

松浦 京子

京都橘大学名誉教授

伝道組織の聖書販売員として貧民家庭を定期的に訪れ割賦代金を徴収する

かたわら女性たちの話し相手や指導者となり価値ある教えを伝える役割を担ったバイブルウーマン。前回、彼女たちが伝えた知識・情報にはいわゆる「衛生思想」があったことを述べ、この「衛生思想」は産業革命を経て工業化社会が直面する課題に対応するものとして誕生したものであり、それをバイブルウーマンが伝達にすするにあたって手引きとなったのが婦人衛生協会（LSAと略）によって発行された小冊子であったことにも触れた。今回は、この小冊子に着目してバイブルウーマンの訪問先の女性たち、すなわち貧民と呼ばれた労働者階級の女性たちに伝えようとした内容について語りたい。

LSAが発行した小冊子は、その題材、内容に応じて大まかに五つに区分されると考えられる。その一つは明確

れゆえ、こうしたジャンルのものが編纂されたのである。

A群以外のジャンルは、区分できると言っても当然ながら内容は重なり合い、相互に補完しあうものとなっている。衛生・保健の基礎知識（Laws of Health）を扱うB群、出産・育児をめぐる心得、正しい育児法、哺乳瓶授乳についての注意喚起などを扱うC群、良き家庭の営み方、妻母としての務めや料理術を扱うD群、そして疾病にかかわる注意喚起を意図して、予防法（種痘など）、公衆衛生的観点からの対処、看病法などを扱うE群の四つである。

労働者階級を対象とした衛生知識、観念の普及のための小冊子、書物は、前回触れた時代状況から分かるように他の組織によっても幾つか発行されており、B群の内容がそれに相当する。しかし、LSA小冊子では、何といっても女性を明確にターゲットとしていたので、版を重ねてポリウムゾーンとなったのはC群とD群である。そして、それこそが、LSAの活動が目指された理由でもあった。

C群はLSA発足当初から力を入れていた内容であった。一九世紀中葉に公衆衛生の必要を社会に認識させる原動力になったものにエドウィン・チャドウィックが中心になって作成された『労働者階級の衛生状態に関する報告』がある。大規模な調査に基づく実例報告と数量データによって衛生状況の劣悪さとその結果としての健康水準の低さを明らかにして中流階級以上の支配層に警鐘を鳴らしたものであるが、とりわけ衝撃的であったのが乳幼児死亡率の高さであった。労働者居住区では新生児の五分の一が生後一年以内に死亡し成人に達する者は半数もいないという実情が示されたのである。それゆえ一八五七年結成のLSAは衛生知識に基づく「正しい」育児法の普及によって喫緊の課題と言える乳幼児死亡の防止を図ろうとしたのである。

そして一九世紀末に近づくにつれてC群の小冊子の内容やその普及方法が社会政策上注目を集めることとなる。列強国家による帝国主義の風潮が高まるなかで米独の追い上げのまに「世界の工場」の地位を追われつつあ

A 中流階級女性を対象とした啓蒙、広報 「衛生改革における女性の役割」 Women's Work in Sanitary Reform	「乳児の育て方 How to Manage a Baby」 「子育てとは種まきである Sowing the Seed」 「子供を洗うことの意味 Washing the Children」
B 衛生・保健の基礎知識 「安上がりの医師、それは新鮮な空気」 The Cheap Doctor : A Word about Fresh Air 「良質な食品が持つ価値 The Value of Good Food」 「健康的な家庭の秘訣 Secret of a Healthy Home」 「身体が日々行っている驚くべき働き」 Every-Day Wonders of Bodily Life	D 家政 良き家庭の営み方、妻、母の務め 「結婚するつもりであるなら About to Marry」 「家庭的な安らぎとは Something Homely」 「誰が失敗したのか？ Whose Fault is It?」 「理想の妻とは A Model Wife」
C 育児・母体に関わる教え 「母親の健康が持つ意味」 The Health of Mothers, with Engravings of Infant's Clothes	E 疾病：予防、対処、看病 「いつ種痘を受けましたか？ When Were You Vaccinated?」 「はしか、母親が心得るべきこと Measles : a Tract for Mothers」

※LSA発行小冊子タイトル抜粋一覧（小冊子巻末頁より松浦作成）

に中流階級女性に向けたもの（A群とする）であった。衛生問題の深刻性、改革の重要性を説き、それへの対処を訴える啓蒙目的のもの、中流階級女性ならではの問題（乳母による代理授乳やコルセットによる過度の締め付けなど）を指摘し改善をうながすものなどが含まれ、また初期にはLSAの広報宣伝を意図するものも発行されていた。設立趣意に明記されているように、元来、LSAは衛生知識（健康法則）を全ての階級に普及させることを目的としていた。そ

たこともあって、「国民効率」の改善を求める声が高まり、その一環としてマン・パワーの確保の観点から出産・育児の問題が注目を集めるようになったからである。この結果、ヘルス・ヴィジター、すなわち訪問保健婦の制度化へとつながったのだが。この点についてはいずれ詳しく述べる予定である。

一方、D群は、理想の家庭、妻・母の在り方を説く内容であるが、家族の安寧を脅かす夫のPap通い（飲酒癖）や手に負えない子供を話題にしてそれはすべて妻の家庭管理のまずさ、母親の浅慮に起因するというのが基本論調であり、中には道徳的説教に終始するものもあった。中流階級の「家庭の神聖」という価値・規範を全面に押し出すものとなっており、それを「貧民」女性、すなわち労働者階級女性に語っていたとすれば、やはりバイブルウーマンは「ミッシング・リンク」の役割

を担っていたと言えるだろう。言い換えれば価値観の押しつけに外ならず、説教臭さとも相まって当時の労働者階級女性が素直に受け入れられるものであったのだろうか？と疑問を抱かせる内容でもある。

ただし、その説教臭さを除いた具体的事例説明は、一九世紀後半に「家政学 domestic science」として成立する学問教育ジャンルに含まれる内容であった。「家政」が公教育制度の小学校において「出来高払い」対象科目、すなわち認定科目となるのは一八七八年であるので、LSAの小冊子は、そうした教育課程の先鞭となったと言えるだろう。また、バイブルウーマンは小冊子をそのまま読み聞かせたわけではなく、たいていの場合、それから得た知識・情報を口頭で、つまりおしゃべりを通して、それも繰り返して聞かせたのである。これこそがバイブルウーマン活動の神髄である。このような一種の口コミは現代のように無数の情報源があったわけではない、あの時代の労働者コミュニティにおいて、バイブルウーマンの訪問を受け入れている女性たちには一定の影響力を持ちえたと考えられるのである。

近代日本音楽史を 彩る女性たち

13
最初の音楽リサイタル
を開催した日本人
原信子(その3)

佐野 仁美

本学発達教育学部
児童教育学科教授

日本のオペラ事情に失望した原信子

(一八九三—一九七九)は、一九一九(大正八)年一〇月に渡米し、作曲者で指揮者のロクサスについて勉強中にニューヨーク・デビューを果たします。『日本オペラ史』1952』によると、一九二〇年九月二五日と一〇月八日にマンハッタン歌劇場のサン・カルロ歌劇団の公演で『蝶々夫人』の主役を務めます。NYタイムズには、「真に東洋的なほっそりした優雅な姿と立ち居振舞い：悲しげで生硬な声だが美しい高音」との評が掲載されました。三浦環も歌ったサン・カルロ歌劇団は、アメリカ本土を中心とした旅回りの歌劇団

です。原は、当時のアメリカは、イタリア人テノール歌手のカルーソーの全盛であり、『蝶々夫人』を演じるのは初めてで、先生に訊ねたり、自分で考えたりして夢中でやったと語っています。一九二一年二月二日の東京朝日新聞朝刊によれば、日本を題材にした『蝶々夫人』《イリス》に出演していた原が、衣装を調達するために社会主義者片山潜の娘でダンスを研究していた従妹の安子と一時帰国しました。同年三月二六日には帝劇で帰朝記念演奏会を開いて、『蝶々夫人』の aria や本居長世の歌曲の演奏と安子の舞踊を行い、再度渡米します。

原は一九二二年に一時帰国して、イギリス人弁護士ジョン・ガスビーと結婚して英国籍となりますが、三ヶ月後には渡米します。震災後の一九二四年にはイタリアに渡り、一九二九年には日本人として最初のスカラ座の専属歌手となりました。一九三四年一月五日の東京朝日新聞朝刊では、一九二四年九月にトリエスタ市の劇場で、続けてあちこちの歌劇場で歌ったこと、しかしどうしてもスカラ座に出たいと思いい、五回目の試験で、『イリス』と『ラ・ボエーム』をトスカニーニの前で歌ってようやく合格したこと、ファッショ

葉の意味を深く掘り下げて細かいところを理解して役になりきることを学んできました。日本人ソプラノ歌手に求められていた役が『蝶々夫人』であったわけで、当時の西洋のジャポニスムへの関心がうかがえます。二〇世紀前半の世界的指揮者のトスカニーニを通して、原がロマン主義を脱却した新即物主義と呼ばれる演奏様式に触れていたことにも注目しておきましょう。一九三一年四月三日の東京朝日新聞朝刊には、ナポリにおける『蝶々夫人』の上演が盛況で、大公妃から賛辞を得たことが伝えられています。

一九三四年一月二日に帰国した原は、日本で活動を展開していきます。東京会館で聴いた原の『トスカ』《椿姫》『蝶々夫人』の演奏について、評論家の伊庭孝は一月一九日の読売新聞朝刊で、以前とは丸つきり違った声の柔らかさと甘さ、輝きがあり、知的的に処理されたフレージングを挙げて、イタリア式の誇張はなく芸術的歌手であると評しています。一月二五日に日比谷公会堂で第一回帰朝音楽会を開き、二月九日にはヴェルディやワーグナーのオペラ・アリアが放送され、三月にはコロムビアから『蝶々夫人』のへある晴れた日に』や『泊り舟』のレコードが発

売されました。二月二三日には、山田耕作指揮の日本放送交響楽団と『蝶々夫人』《イリス》が放送されました。同日の読売新聞朝刊では、一九二四年にイタリアのメラーノで初めて演じてから『イリス』を約四〇回、『蝶々夫人』はアメリカで二年、ヨーロッパで九年間五〇〇回以上歌ったこと、『イリス』の作曲者マスカニーニから教えを受け、イリス歌手として折り紙をつけられたことを語っています。

原は、一九三五年に第一回原信子研究所員発表会、一九三九年に日比谷公会堂で原信子歌劇団旗上げ公演を行うなど、徐々に後進の指導に活動の軸足を移していきます。最後に、戦後の原の特筆すべき舞台として、オペラ『夕鶴』を挙げておきましょう。劇作家木下順二が日本の民話「鶴女房」をもとに書き、演劇として大成功した戯曲に、團伊玖磨がオペラとして改めて作曲した『夕鶴』は、藤原義江主宰の藤原歌劇団により一九五二年一月末から二月にかけて大阪、東京で上演されました。つうを演じた原は、團の現代音楽によって新しい性格のつうが出来てくるので、自分が思っていた古いつうと新しいつうがケンカして困ったが、勉強していくうちにこの日本人だけで作られ

化で外国人が排斥されても、政府から厚遇されていたこと、楽壇はどこも不況で、本場のオペラの経営も苦しいが、真面目な、本格的な芸術的音楽会は却って盛んで日本のように流行唄に圧倒されることはないと言っています。

原の回想によると、アメリカではブリマドンナの気分まで有頂天になっていましたが、イタリアで端役よりも歌えないことを痛感し、コットーネについて真剣に勉強した後、ルッスから発声の基礎と指揮者のピネッティからレジェーロな(軽い)動きや楽器的な声や宗教的な声といった声の使い分けを習いました。発声法を学んで声をつくり、作品を一つ一つ習ってレパトリーを増やしていったのです。

ミラノのダル・ヴェルメ劇場では、『蝶々夫人』のオーディションに合格してプッチーニと知り合い、「ここはこのような気持ちで」という指導を受けることができたと言っています。スカラ座では毎日三、四時間指揮者について歌と演技を教わり、一月のうち二〇日間はスタジオに通うという日々を送りましたが、それでもなかなか良い役を得られません。作曲家のジョルダノやトスカニーニからは楽譜に忠実な演奏をするように厳しく指導され、また、言

たオペラが、今まで歌っていた外国のオペラより直接にピツタリと、自分の声に入ってゆくことを感じたと言っています。イタリアで『蝶々夫人』と本居長世の歌曲を録音した原ですが、日本語のリズムや抑揚に従ったオペラの良さに気付いたのでしょう。その後、『夕鶴』は八〇〇回を超える上演回数を誇る日本人の創作オペラの代表作となっていくのです。

以上のように、原信子は、オペラへの一途な気持ちを持ち続け、帝劇オペラや浅草オペラから抜け出してイタリアで長く勉強し、一流の音楽家と交わることによってオペラの真髄に触れ、それを日本に移そうとしました。外国オペラの抜粋、翻訳が中心であった日本の初期のオペラ事情から日本の本格的な創作オペラに至る道程を経験した歌手の一人と言えるでしょう。

【主要参考文献】

- クリストファー・N・野澤『幻の名盤伝説第二〇回』『ストリングス』一九九九年一月号、三六—四〇頁。
- 東京新聞文化部編『芸談』東和社、一九五五年。
- 増井敬二『日本オペラ史』1952』昭和音楽大学オペラ研究所編、水曜社、二〇〇三年。
- 宮沢一編著『明治は生きている—楽壇の先駆者は語る—音楽之友社、一九六五年。
- 山田肇他編『夕鶴総合版』未來社、一九五三年。
- 堀内敬三『音楽五十年史』鱗書房、一九四二年。



私の読書の中のジェンダー

佐久間 浩司 本学国際英語学部国際英語学科教授

これまでの読書体験の中で記憶に強く残っている女性やジェンダーに関する話をしようと思います。

四〇年ほど前、大学受験に失敗して、これから一年浪人かと嘆きながら畳の上に寝転がって読んだのが水上勉の『五番町夕霧楼』¹⁾でした。夕子という戦後間もないころの薄幸の遊女が主人公の話です。そんな世界が残っているとは思わなかったものの、京都への興味が俄然沸いてきて、二年目は京都の大学を受けました。これが関東人の私と京都の縁です。八年前に再び京都に住み驚いたのですが、四〇年前の町の印象はほとんどそのままでした。

大学に入り禁欲生活から解放されたれ、さあどうすると思っただころへ、友達から読めと渡されたのが、柴田翔の『贈る言葉』²⁾でした。これは、一人の女子学生の、自分の将来の夢やそれを阻む壁などの苦しみの物語です。あるとき彼女が恋人の男子学生と今後の二人のことについて話すなかで「男だから判らないんだわ」と言い放ちます。彼は「それは、ほくも判っていることを、君は知らないのだろうか」と反論しませんが、詳細は省きますが、ともかくこのやりとりで衝撃を受けました。何も経験する前から、ジェンダーの境界の向こうには、自分は見えていないつもりでも、まったく見えていないことがあるということを知ったのです。

こうした、見えない部分を解説してくれたのがジョン・グレイという米人作家の『男は火星から、女は金星から』(原題は『女は分らない』)とほやくことになります。逆もしかりで、女は「男ってなんでこんなにバカなの」と嘆くわけです。

こうした内なる矛盾の中でもジェンダーに絡んだ矛盾を手に表示したのが、ラッセル・ベイカーの自伝『グローイング・アップ』³⁾の一節です。ベイカーは、二〇世紀後半の米紙コラムニストですが、強烈な個性の自分の母についてこんな風に書いています。「母の男性観は、二〇世紀のフェミニズムとヴィクトリア朝的ロマンチズムが、奇妙にまじりあったものだった。フェミニズムは母に、男に対する怒りと、ズボンに代表される不公平な特権に対する憤りを植えつけた。(中略)母はいくらかは、女王にもなりたがった。平等を求める現代的フェミニズムと、女性は社会的には清らかで気高い存在であり、文明の貴重な財産として保護され、いつくしまれるべき特別な創造物であるとする一九世紀的女性観は母のなかで葛藤していた。こうした融けあうことのない二つの価値観を内に抱える人は少なくないですが、そういう人を責める気持ちはありません。自分だっただけで見ていただけできつとそ

うなのです。最後に性的マイノリティーについての本で心に残ったことを書きましよう。竹内久美子という動物学者の『同性愛の謎』⁵⁾



ラッセル・ベイカー『グローイング・アップ』

です。これは、子孫を残さないという、生物の本能に反する性向を持つ人がなぜいるのかという動物学者としての関心から書かれたものです。

Men Are from Mars, Women Are from Venus: The Classic Guide to Understanding the Opposite Sex』⁶⁾です。タイトルの通り、太古の昔、男は火星から女は金星からやってきて地球に住むようになったが、長い歳月のうちに両者は同じ地球人だと思いつくようになったというものです。生まれた惑星が違うほどお互い異質な生物だという話です。

この中で、夫は「Mr. Fix-It」と表現され、家庭内に問題があると、どこが悪いのかを見つけてすぐに修理し、それですべて完了と思えます。奥さんは不満解決を求めているのであり、迅速に対応すればするほど高く評価されると信じています。だから、何が問題なのか分からない話し方は、Mr. Fix-Itは苦手です。

一方、奥さんの方は「Home-Improvement Committee」と表現され、家庭内の諸々の事を常に改善しようとしています。諸事とは主に夫のことです。夫の方は、結婚するまでの長年染み付いた習慣ですから簡単に直るものではありません。それでも奥さんは決して諦めず夫の悪癖を直そうとします。

男女の違いを本当にうまく説明していると思いましたが、男女の違いなくたいいてい人は内に矛盾を抱えています。自分の矛盾には気づかず、身近なひととの矛盾は気づいてしまっています。男にとって身近なひととは、母に始まり恋人、奥さんへと継がれます。男同士は、父と息子にせよ親友にせよ、少し距離があるように思います。それで自然と、男が気づく

彼女が展開した「母体免疫仮説」はとても驚きました。男性同性愛者のいる一族は、女性(母、母方祖母、母方おばなど)に多産傾向がみられ、結果として子孫は繁栄しますが、その代償として時々男子に同性愛者が現れるというのです。理由は、多産家系ということは時々兄の多い男子が存在します。その母親の体内には、長兄、次兄と男子が宿る度に、女性にとつて異物である男性に対する抗体が増えています。その抗体の影響で、後に生まれた男の子になればなるほど、男性性が弱められて生まれる可能性があるという説です。

これは、諸説ある中の一つに過ぎませんが、二〇一二年の本なので、その後学説は変わったかもしれませんが、良い人間関係を作る上でのとても大事なことを教わった気がしました。誰かに違和感を抱いたり反発を覚えたりしたとき、すぐに反応しないで広い視野を持つとうとすることです。自分に見えてないならかの事情があるかもしれないと想像してみることです。

女性、ジェンダー、マイノリティーなどに絡む問題は、社会としては包摂的な仕組みを作って対応すべきですが、個人の日々のレベルでは、「自分には見えてないなにかがある」と想像することがなにより大事だといつも自分に言い聞かせています。相手がマイノリティー、マジョリティー、性別に関係なくです。

【参考文献】

- 1) 水上勉『五番町夕霧楼』新潮文庫、一九六六年。
- 2) 柴田翔『贈る言葉』新潮文庫、一九七一年。
- 3) John Gray, Men Are from Mars, Women Are from Venus: The Classic Guide to Understanding the Opposite Sex, Harper Paperbacks, 2003.
- 4) ラッセル・ベイカー『グローイング・アップ』(麻野二人訳) 中公文庫、一九八九年。
- 5) 竹内久美子『同性愛の謎 なぜクラスに一人いるのか』文春新書、二〇一二年。

ジェンダーの構造を考える ―見えない枠を超えて、未来を創る―

女性の社会での活躍が課題と広く認識され、政府や社会で取り組みが始まってから長い年月が経っています。男女雇用機会均等法から40年、女性活躍推進法からも既に10年が経過しますが、なかなか成果が上がりません。国際機関が示すジェンダー・ギャップ指数でも、わが国は先進国最下位です。

その一因として、企業など組織に縛られる日本型の働き方があるといわれています。それでは専門職であり、サラリーマンとは違って組織からもある程度自立できる看護職はどのように働き、活躍しているのでしょうか。主に女性看護職の働き方を手がかりに、働く女性をとらえるジェンダーの構造を考えます。

日時

2025年 **6月14日(土)** 13時00分~16時00分

会場

キャンパスプラザ京都 JR「京都駅」烏丸中央口より徒歩約5分

講師

荒見 玲子 (名古屋大学大学院法学研究科 総合法政専攻 教授)**那須ダグバ 潤子** (京都橘大学看護学部看護学科 准教授)

コーディネーター

竹内 直人 (京都橘大学経済学部経済学科 教授)

<定員> 250名 ※事前申込制 <受講料> 無料

<申込方法> 4月14日(月) 9:00より受付開始(先着順)

本学HPの申込フォーム(右記二次元コードからアクセス)・E-mail・電話・FAXにて受付。

①講座名 ②氏名(漢字・フリガナ) ③郵便番号 ④住所 ⑤電話番号を添えてお申込みください。複数名でお申込みの場合は、全員分のお名前をお知らせください。

<申込・問合せ先>

京都橘大学 女性歴史文化研究所(学術振興課)

TEL. 075-574-4186(直通) ※受付時間 9:00~17:00(土日祝を除く)

FAX. 075-574-4149 E-mail aca-ext@tachibana-u.ac.jp



LIME 通信

大阪・関西万博が「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに4月に開幕します。“When women thrive, humanity thrive(女性の繁栄は人類の繁栄)”をコンセプトに女性のエンパワーメントに焦点を当てた展示やイベントを行う「ウーマンズパビリオン」が設置され、ジェンダー問題の視点から解決策を提案する重要なスポットとして注目されそうです。

万博とは、各国がその時代の社会課題や未来のビジョンをテーマに技術・文化・社会の進展を共有する国際博覧会で、その歴史の中でジェンダー問題がさまざまな形で反映されてきました。最初のロンドン万博(1851年)では女性の参画は極めて限られていたものの、シカゴ万博(1893年)で計画から運営まで女性が担う女性館が初めて建設さ

れ、最近ではドバイ万博(2020年)の女性館が女性の社会貢献に光を当てたパビリオンとして成功を取っています。日本では高度経済成長期を象徴した大阪万博(1970年)開催の頃から女性が社会で果たす役割についての意識が高まり始め、半世紀を経て大阪・関西万博「ウーマンズパビリオン」の展示で可視化されることになります。

過去の万博では表面的にはジェンダー平等を謳う一方で、運営や意思決定における女性の実質的な参画は依然として少ないことが課題でした。持続可能な社会の構築に女性が果たす重要性が強調されるいま、これまでの歴史を踏まえてジェンダー問題への対応がどのように展開されるのか、今回のパビリオンに期待したいところです。(西野)

CHRONOS(クロノス) vol.52

発行日: 2025年3月

発行: 京都橘大学 女性歴史文化研究所
〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34
Tel.075-574-4186 Fax.075-574-4149
E-mail: iwhc@tachibana-u.ac.jp京都橘大学
女性歴史文化研究所